
イナズマイレブンGo! イギリスからの転入生

Babylon

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

イナズマイレブンGO！ イギリスからの転入生

【Zコード】

N0725V

【作者名】

Babylon

【あらすじ】

* * * * *

雷門中に転入してきたのはイギリスに留学してた少女。しかもサッカー部入部つてこの子何者？！？！

話にあまりあわせず作ったオリジナルストーリーの完全夢小説です。アニメとはまったく違うフィクションなのでご注意下さい。あと、オリジナルキャラクターが出ます

1、プロローグ（前書き）

オリジナルストーリー、オリジナルキャラクターです。
それを承知でご覧ください。

1、プロローグ

「よっしゃつ！」

一人の少女が気合いを入れたのか手をグッと握った。
赤茶色の髪をしたちよつと身長が小さめの少女が雷門中に入つてい
つた。

「校長先生、失礼いたします。」

理事長の冬海先生に連れられて少女は校長室に入つていった。

* * * * *

そのころサッカー部は朝練をしていた。

雷門サッカー部はサッカー強豪校。しかし部員数は少ない。
キヤプテンの神童拓人は学校登校時に校門前で赤茶色の髪の少女を
見た。

転校生か。

と、すぐわかつた。

「……どうー！ 神童！！！」

神童を呼んだのは小学校からの親友、霧野蘭丸。ピンク色の髪にツ
ーテール、動きもなめらかでよく女子に間違えられる。

「き……霧野か……」

「何を考えてたんだ？？どうした

蘭丸は不思議そうに聞いた。

「いや……別に」

「…………？ そつか……」

2、新入部員（前書き）

神童は”妹”を考えていた。

拓人が10歳の時、妹は9歳で天才と呼ばれ、9歳の誕生日に外国を旅立つたまま、連絡がついていない。
もしかしたら……とも言われている。

拓人は妹がいつか帰つてくると信じている。
そして何よりも妹を大切にしていた。

はあ……つとため息をついた。

「しん様……」

遠くから茜が心配していた。

* * * * *

そのころ赤茶色の髪をした少女は冬海、校長と共にある部活に向かつっていた。

* * * * *

サツカ一郎が朝練をしているさこちゅう、遠くの方から
「円堂監督！－！ちょっとお話が……」

と言ひ声がした。

冬海先生だ。

円堂は冬海先生の方へ行つた。

「…………誰だあれ？」

水鳥は冬海先生と校長が円堂と話をしている近くに誰かが見えた。
その水鳥の声にいち早く気付いたのは、拓人だった。

そう。あの赤茶色の髪の少女だった。

やはり小さく、小柄で、でも顔は見えなかつた。

髪の毛はボニー テールをしていて、ストレートだった。

そして円堂が戻ってきた。

あの赤茶色の髪の少女を連れて。

円堂に何か説明を聞いている。

「水鳥さん……あれ誰でしょうか？」
葵がいった。

さあ？と水鳥は言った。

でも見た目から一年生とわかつた。

「みんなっ！集合だつ！！」

円堂が集合をかけた。

少女ははずかしがって円堂の後ろに隠れてしまつた。
サツカ一郎の部員が全員集まつた。

「サツカ一郎に新しい仲間だ！！！」

円堂は喜びながら言つた。

一同は驚きを隠せない。

「新しい…………部員？」

倉間が言つた。

「しかも松風！！剣城！！西園！！おまえらと同じ年だ。」

「…………ええっ！？」

天馬、京介、信助は声をそろえた。

「つてことは…………私も？」

葵が言つた。

「そうだ」

円堂は言つた。葵は正直に嬉しかつた。

すると少女は出でてきた。

顔がはつきりわかつた。

整つていて、美しかつた。

「彼女は神童琴。イギリスからの転入生だ。」

一同は”神童”と言う言葉に反応した。

「神童琴です。イギリスいましたが、イギリスにいる前の記憶は事
故で失いました。だから日本語もまともにしゃべれてないです……
よね？」

拓人は驚いた。

いなくなつたはずの妹と同姓同名でしかも学年が同じなんて……。
しかし髪の毛が違う。

拓人と似て、天然パーマだつたはずだつた。
だから拓人は別人と判断した。

「ちゅーかなんで今どき??」

浜野が言った。

「神童琴には、試合に出てもらひ。」

円堂は言った。

「つて事は……選手?」

三國はきょとんとして言った。

「そうだ。」

一同はもつと騒がしくなつた。円堂は琴にユニークホームをわたした。
「練習の時や、試合に着るユニークホームだ」
琴は受け取り、ありがとうございます。と言つた。
すると冬海先生と校長は琴を呼びにきた。
「では…………また。」

と言つて、さつていつた。

2、新入部員

一同はやはり頭がこんがらがっていた。

神童と言つ名字……

でも神童に妹がいたと知つてゐるのは拓人本人だけのはずだ。

だからみんなは

たまたまだよな。

と流した。

琴は校長室にいた。

琴が留学していた理由はピアノが優れていたためだった。

しかし、ヨーロッパに渡った際に車に跳ねられ、記憶を失つた。

琴はピアノを一から習つた。それから4年の月日が過ぎた年にあず

かり手であつた、家主が亡くなり、日本に帰つてきたのだ。

「家主様から聞いた話なのでよく分かりません……すみません」

琴はしょんぼりしていた。

「今は施設に預かってもらつてますが、そのうち本当の家族が迎えにきてくれるのを待つてゐるんです。」

その時チャイムが鳴つた。

では、失礼しました。と言つてから校長室を後にした。

丁度琴が出た時に天馬と葵と信助が通りかかった。

「あ、琴ちゃん!!」

葵が気付いた。

「えつと……あ、空野さんに、松風さんに、西園さん!」

琴が近づいた。

琴の手にはクラスの書いてある紙を持っていた。

紙に書いてあるクラスは3人と一緒のクラスだつた。

「じゃ、一緒にいこうよーー!」

天馬が言つた。

「じゃあ……よろしくお願ひします」

4人は教室に向かつた

3、音楽室

琴は疲れていた。

学校のことを覚えたり、クラスの場所を覚えたりと、転入早々忙しかった。

幸い、天馬、信助、葵とはクラスが一緒だった。

琴はサッカー部に向かう途中、音楽室を見つけ、鍵が空いていた。

「3：20……まだ平気か」

とおもい、ピアノを見つけピアノを開けた。

丁度その頃近くを拓人、そして蘭丸が歩いていた。

「なア 神童……さつきの転入生、妹じや無いのか？」

拓人は蘭丸の言葉に驚いた。

「おまつ！！なんで妹がいたって知つてんだよ？！」

拓人は蘭丸に聞いた。

「なんでって……小学生の時……」

蘭丸の話によると拓人の妹の見送りに一緒にいた、と言っている。そういうえば……

と、拓人は思ったその時だった。

（――）

ピアノのきれいな旋律が聞こえた。

「ドビュッシーの……月の光……」

なめらかで心地よい、どこか懐かしい曲だった。

どうせ先生か先輩が弾いてるだろ。と思つたが今、先生達は会議中だ。

「神童、ちょっと行こうぜ」

蘭丸が言った。

音楽室を覗きに近づいた。

ピアノを弾いていたのは、琴だった。

琴は拓人と蘭丸に気付いた。

「あ、神童先輩に霧野先輩！！」

琴は話掛けた。

「神童さんもピアノ弾けるんですね？？弾いてもらつてもいいですか？？」

拓人は一瞬迷つたが、弾くことにした。

拓人がピアノを弾きはじめると琴の目は輝いた。

琴の隣にいた蘭丸は少し複雑だった。

その時、琴が急に倒れた。

隣にいた蘭丸はすかさず支えた

「神童っ！！！神童っ！！！」

拓人は何が起こったか分からなかつた。

蘭丸も、琴も何が起こったか分からなかつた。

「…………き、霧野さんっ！！すみません……」

琴は特に何も無かつたようだ。

「いや…………おれは別に…………／＼」

蘭丸は時計をみて焦つた。

「神童っ！！練習が始まると！！！」

拓人もそれを知つて、急いでピアノをかたづけた。

4、実力

3人はそれぞれ、更衣室に向かつた。
一年女子の更衣室は意外と空いていた。

「あれっ！？ 琴ちゃんじやん！！」

同じクラスの子がいた。

「そのユニホームつて……サッカー部？！？！」

どうやらとても驚いたようだ。

「うん。好きだったから……あ、ごめん！！！もう始まっちゃうから…じゃあね」

と言つて更衣室を出た。

でも琴は思つた。

サッカー部どこでやんの…

そう思つてたら丁度前を天馬達が通りかかつた。

「あ…！ 琴ちゃん…！」

葵が気付いた。

「葵ちゃん…！ あのさサッカー部まで一緒に行つていい？？」
琴は恥ずかしかつた。

「いいよ…！ ジャあ行こう…！」

後ろから拓人と蘭丸が見ていた。

後ろから見るとよく分かるのだが、本当に小柄だ。
拓人はやっぱり妹なのか？と疑つていた。

でも何ヶ所か違う。

一番は髪の毛。天然パーマで拓人と同じような髪型のはずだつた。

「お前ら遅いぞーーー！」

円堂が言つた。

すでに練習は始まつていた。

剣城はユニホームを着てベンチにいた。

琴は剣城を知らない。

「ねえねえ。松風くん。あそこのベンチに座ってる子って同じ年？」

？」

「そうだよ」

天馬は応えた。

「神童琴つ！！」

円堂は琴を呼んだ。

琴はキヨトンとしている。

「ゴールに向かつてドリブル、シュートしてみる」

一同は気になつて、一斉に琴を見た。

「…………わかりました」

キーパーには三国がいる。

ディフェンスも何人かいる。

「いきます。」

一同は息をのんだ。

琴はボールを蹴りはじめた。

ボールを蹴ったと思えばもうゴール前にいた。「えつ…………？」

一同は目を疑つた。

琴は「ゴールに向かつてボールを蹴つた。

「どんなショート技なんでしょうか？」

茜は水鳥に言つた。

「さあね？？」

と言つ会話をしていたが、琴はショート技と言つものを知らない。しかし、琴のボールの威力はすごかつた。

キーパーをやつていた三国が一番よくわかつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0725v/>

イナズマイレブンGo! イギリスからの転入生

2011年10月9日01時03分発行